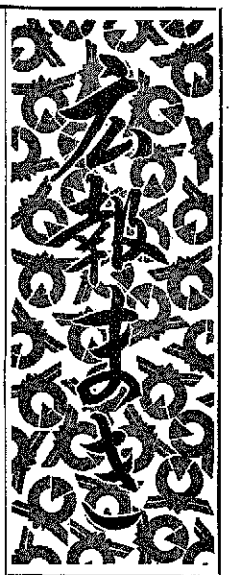


1969年9月10日
第83号
発行　新潟県巻町役場
電話代表(2)3131
編集　商工観光課

住民基本台帳人口
（昭和44年8月31日現在）
総人口　27,540人
男　13,300人　女　14,240人
世帯数　6,016

町民登山

ことしは三階節の米山

十月十二日

これからは山が一番はなやかな衣しょうに包まれる季節。

ことしも恒例の町民登山を十月十二日（日）秋たけなわの米山へ計画しました。

米山は標高九百九十二・九メートルで民謡三階節でおなじみの山です。頂上に至る登山道はよく整備されているため登りやすく、体力に自信のある方なら初心者でも楽に登れます。ハイキングクラブ員も多数同行していろいろとめんどうを見てくれますので、グループまたは一人で気軽にご参加ください。

また山頂では豚汁をつくり、妙高山、北アルプスの峰々をながめながら楽しい中食のひとときを過ごしてもらうことになっています。

参加会費は六百五十円。参加希望者は巻町公民館（TEL2―3329）か、七区山添昭敏（TEL2―3624）のいずれかにご連絡ください。乗り物のつごうで定員は四十六人。満員になりしだい申し込みを締め切らせていただきます。

参加者の持ち物は中食、雨具、水筒、着替え、食器。

町、本格的に取り組む

原子力平和利用調査会

各層から三十人

講演会、視察で安全性研究

初会合から活発な意見交換がなされた調査会

町では、原子力平和利用調査会を発足させ、このほど初会合を開きました。

調査会の構成メンバーは町民各層の代表、知識経験者からなる三十人。

建設が予想される原子力発電所の安全性の調査および設置の利点などを調査研究することになっており、そのための事業として講演会、展示会、映写会、施設の視察などが予定されています。

発会式は江端町長のあいさつに始まり、続いて高野助役が巻町原子力平和利用調査会発足までの経過報告、そのあと規約の審議、役員の選出を行ない、午後から「原子力発電のしくみと安全」、「原子炉の安全」の映画を見て、初の会合を閉じました。

なお、茨城県東海村の日本原子力研究所、東海原子力発電所を九月八、九日全員で視察して帰りました。

また、調査会の役員と会員は次のとおり。（　）は役職名

▽会長江端一郎（町長）▽副会長竹内十次郎（県会議員）、斎藤順作（郡医師会長）、▽幹事山添幸雄（角海浜区長）、遠藤栄吉（五ケ浜区長）、有田正悟（商工会副会長）、今里耕作（農協連絡協議会長）、藤田シヅエ（婦人団体連合協議会長）、佐藤従（PTA連絡協議会長）

▽会員三沢博人（巻保健所長）、朝妻邦雄（巻土木事務所長）、田村真現（巻工業高校長）、阿部東一（農業委員会長）、和田吉二（教育委員長）、篠原嘉一（角海浜副区長）、阿部徳二（五ケ浜副区長）、篠田清蔵（角田浜区長）、鈴木太平市（越前浜区長）、高杉久治郎（四ッ郷屋区長）、阿部佐五郎（漁協組合長）、金子昇（福井区長）、結城イサ（浦浜婦人会長）、阿部辰造（消防団第八分団長）、平野謙六、竹内長氏知、小林兼吉、赤倉庄二、山下貫司、湯田一志、本間昭一（以上知識経験者）

今月の学級・講座ご案内

〔三歳児母親学級〕三回目
とき　九月二十一日午後二時
ところ　巻町公民館
講師　巻小学校　植村先生

〔青年講座〕三回目
とき　九月二十六日午後八時半
ところ　巻町公民館
講師　巻保健所長　三沢先生

農繁期

交通魔が狙う

横断時に誘導員つけて

収穫期を迎え、交通事故の多発が予想されますので、巻地区交通安全協会および巻警察署では農家のみなさんに次の注意を望んでいます。

◎道路の安全横断の方法

イ、横断時は必ず一時停止と安全確認の励行。

ロ、横断時は誘導員をつけ、安全の確認を行なう。

ハ、誘導員は横断黄旗により通過車両に合図し、協力を求め、停車を待って横断する。この場合適切な合図（少くとも百メートル以上前方の車両を明確に）をすること。

◎駐車禁止指定場所

国道一一六号線は全線駐車禁止になっています。

また、禁止以外の道路でも交通のさまたげにならないよう。道路沿いの稲ハザ場に稲を積み重ねる場合道路上に出さないようにすること。

なお、交差点付近のハザ場での稲かけは運転者の視界をさまたげないよう空間をつくるなどの協力をおねがいします。

当日の集合は巻駅前に午前六時十五分まで。参加者全員に記念品を贈ります。

雨天の場合は中止。

ホッケー

巻工、長崎国体へ

第二十四回国体ホッケー競技（高校男子、一般女子）ブロック予選会が八月三十日、三十一日の二日間、県立巻工業高校グラウンドで行なわれ、富山県、福井県、岩手県、秋田県、新潟県の代表チームが参加。

高校男子の部で地元巻工高が二回戦で抜群の攻げき力を持ち今年度インターハイ準優勝の福井県の丹生高と対戦。丹生高チームの戦法を徹底的に研究した作戦が図に当たり、巻工高ペースで試合を運びましたが、丹生高ゴールキーパーのファインプレイなどもあり、延長戦にもつれ込み、結局0対0で試合終了。抽せんの結果巻工高が勝ち決勝戦に進み、富山県の石動高と対戦。1対0と順当に勝ち十月下旬開かれる長崎国体の出場権を得ました。

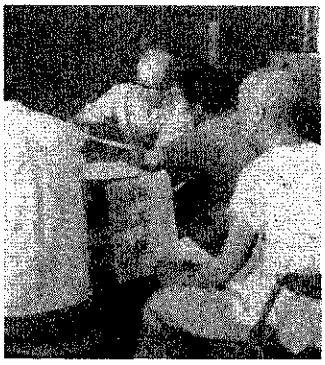
浦浜で総合へき地診療

無医村に医師会奉仕

"体の欠陥"発見に住民の長い列

八月二十九日浦浜小中学校で五ケ浜、角海浜部落の全住民を対象とした総合へき地診療が、県、郡医師会、巻保健所の好意で行なわれ、百二十人が受診しました。

浦浜（五ケ浜、角海浜）は交通



最後に指導医が健康管理の助言

神妙に心電図を受けるこどもたち

立巻病院の出張診療があるのみで比較的近代医学の恩恵を受けておらない地区。総合へき地診療は住民にとっては願ってもない機会だけに老いも若きも会場につめかけ、順番を待つ長い行列ができました。レントゲン、検便、検尿、身体計測、血液型検査、内科、小児科、耳鼻いん口科、心電図、眼底撮影などの診療、検査がお医者さんと各技師の手で進められ"体の欠陥"発見に献身的にあたられました。ひとことおり診療を受けた住民は最後に指導医から各自のカルテを見ながら健康上のいろいろな注意を受けました。沿岸部に多いといわれる眼病がこの地区でも多かったようです。

この診療を医療機関でしてもらった場合は約三千円のお金が必要といわれ、これが全部無料なだけに住民にとってはすこぶるつきの大喜び。三年前にも同規模の診療が行なわれているだけに心から主催者側に感謝していました。

また、巻保健所の移動保健所も併設され、栄養相談、モデル献立の試食会が人気を呼んでいました。

町立巻病院

診療日程のお知らせ

このまえお知らせしました町立巻病院の診療日程に一部あやまりがありましたので、訂正しておわびします。

なお、神経内科は今月から新設されました。

▼整形外科は毎週月・水・金曜日の午前中。

▼眼科は毎週火・金曜日午前中。

▼産婦人科は毎週月曜日午前中。

▼神経内科は毎週金曜日午前中。

▼脳神経外科は毎週水曜日午後。

▼泌尿器科は毎週火・金曜日午後。

▼皮膚科は毎日午前中。

達者でいます

将軍と大僧正の健康問答

五十嵐惣一さん

郷里の皆さま本年の稲作はどうですか。蒲原平野いな日本全土に台風のないことを祈っています。

私どものような年齢になるとお互いが健康管理にもまた心掛けるようになるものである。心掛ければ長寿に関係が生ずるからである。

三代将軍と天海大僧正の健康管理問答。

古い話であるが徳川三代将軍家光公と天海大僧正との健康管理についての問答がある。

慈眼大師天海大僧正は古今まれなる学徳兼備の高僧であって、徳川家康公、二代将軍秀忠公、三代将軍家光公と三代にわたって深く帰依されたとのこと。僧正は非常に健康のお方であって齢（よわい）百八歳の高寿を保ち、寛永十年十月二日遷化されたのである。今の東叡山寛永寺は寛永二年慈眼大師天海大僧正の開山であることは皆さまご承知と思います。

ある時、三代将軍家光公が僧正にお問いになられていわく「貴僧はまれなる健康の保持者であるが、どんな心がけをすれば よいか教えてほしい」、天海僧正答えていわく①粗食（ぜいたくな食事をせぬこと）②正直（悪いことをせざること）③日湯（朝湯あるいは毎日入浴すること）④だらり（体を自然にして固くならざること）⑤偶々お下風あぞはざるべく候（すなわち時々屁をこけ「越後方言」）とお答えになられたそうである。時の大将軍でさえも自分の健康管理のためにはいかに関心をもっておられたかがわかる。

これからでも遅くない心がけましょう。

職業　北越建築工業KK社長（全国納税貯蓄組合連合会副会長）

住所　東京都千代田区神田三崎町二の九

（仁盛出身）

北陸地方

空模様

台風一、二個上陸か？

これからは農家のみなさんにとっては一年中の苦労が結実される収穫期。それだけに空模様がたいへん気になるシーズン。

新潟地方気象台からこのほど北陸地方三カ月の長期予報が発表されましたので、そのうち九月、十月の予報をお知らせします。

◆九月の予報

後半は移動性高気圧におおわれ比較的晴れる日が多く、気温も高めでしょう。台風は一～二個本土に接近または上陸するものがありそうです。平均気温は平年並みか低め、降水量は多め、また日照は少なめのみこみです。

◆十月の予報

上、中旬は天気が変わりやすいみこみですが、その後は晴れる日が多いでしょう。平均気温と降水量、日照とも平年並みのみこみです。

敬老の日近づく

"ろ"握ったら天下一品

八十二歳の現役漁師　山下勘次郎さん（越前浜）

九月十五日は敬老の日。多年にわたって社会に貢献した老人を敬愛し、長寿を祝うことになっています。とかく孤独でみじめな余生におちいりやすい老人の生活を明るくゆたかにするため、すべての人が老人のしあわせについての関心と理解を深め、円満な家庭、明るい社会をつくり、また、老人自身も社会的、家庭的な役割を自覚、時代とともに生きる意欲を盛り上げようとするものです。

敬老の日にちなみ、今でも舟に乗り"ろ"を握ったら若い人でもこの人の右に出る人はいないだろうといわれる生粋の漁師山下勘次郎さん八十二歳を越前浜に訪ねました。

出漁に備えカニ網の手入れをする山下さん

明治二十二年生まれの山下勘次郎さんの名は越前浜部落はもとより沿岸部の漁師で知らない人はおそらくないだろう。

"ろ"を握ったら天下一品、漁師生活七十年に近く、八十二歳の現在でも立派な現役だ。

勘次郎少年は最初から漁師志願だった。昔の越前浜沖合いはおびただしいほど魚がとれた。タイ、小ダイ、大羽イワシなど。

大羽イワシ七千四と漁具を積み海面スレスレ、これ以上積むと舟が沈没、命もあぶないので目の前で泳ぐ大羽イワシを横目で見、断念して帰ったこともしばしばあったという。しかし、今から四十五年前治水事業の大河津分水が完成してからは、悪水の流入、土砂の搬入で魚のベットタウン大陸棚をすっかり埋めてしまい、それ以後タイ、小ダイがまったくとれなくなり、大羽イワシの漁獲高も年を追って少くなったという。

海が荒れる時ほど魚がとれる。だが、大波が押し寄せてくる沖合いに舟を出して魚をとることはむずかしい。命の保障が全くないからだ。こんな時、勘次郎さんが長年つちかった抜群の技術を発揮する時だ。

しかし、危い橋も一度ならず渡った。夜、漁の帰りにシケに会い舟の生命といわれる"ろ"を折ってしまい、ニッチもサッチもいかずただ暗く荒れ狂う波間で方向もわからず流されるだけ。生死をさまよったこの夜は生涯で一番長かったという。家族も遭難したと半ばあきらめていただけに、翌朝勘次郎さんの元気な顔を見たとき飛び上がって喜んだ。

山下さんの家族は現在七人。別に勘次郎さんが漁に出なくとも生計は十分立っているが、本人の「体を動かすことは健康法の一つである」モットーと舟主にたのまれ漁に出ている。とにかく海が好きで、舟に乗っても体の疲れはほとんどないという。今の越前浜付近はカニ、イワシが少々とれる程度。昔の面影は全然ない。

海に行かない日は牛の草刈りなどでのんびりすごす。酒は休をこわしてからビール二本が適量。テレビよりラジオの方を好み、天気予報は毎日聞きのがしたことはなく職業意識に徹底している。

親友の古田島栄さんは「勘次郎さんの"ねむいとかたんぎ"とかの言葉を聞いたことはない。若い人もよいところは見習ってほしい」と語っています。

最後に最近の風潮として「今の若い人は一般的に老人をうやまう精神にかけている」と痛いところをチクリ。体の続く限り海に出たいと念願している勘次郎さんは魚のいなくなった海を見やり淋しく笑った。

農業の道しるべ

婦人に期待する

専任技師　西村　欣策

△京都で行なわれた婦人の夏季大学が、その地方の話題になって「テレビ」で放送されたことがあった。

△たしかに、人の勉強している姿は美しいものである。

△しかし、農村の婦人が、勉強しているのが珍しい、ということで話題にしたり、農村婦人の「レベル」が低いから、ということでそんな番組を作った、とするなら、大いに抗議をしたい。

△この地帯では、いま、一番勉強しているのは、婦人層である。この七月に、巻町農業振興協議会で、自営者夏期学級を開いた際、巻農協管下では、男子が十四人、女子が七十人、集まって来る状況が、全然違っていた。

△福木岡農協での、男子学級に、一人も集まるものがなかった。その半面、漆山農協では、毎日五十人を越える婦人たちが、出席して、盛大であった。

△ここで見られるように、どこでも、婦人の勉強意欲は大きく、立派なものである。

△いまでは、婦人たちの前で、「反応のあるような話の出来る人は少なくなった。

農村では、婦人たちが一番勉強をしているからである。

△これからの農村は、なかなかむづかしい時代になる。

そこで、この賢しい婦人たちが、立ち上がって、農村の生活や生産、ひいては、経営の問題について、立派な主役や、わき役をこなしてほしいものである。

△ただ昔から「女さかしゅうして牛売り損なう」という諺があるが、その体得した知識を生かすことに間違っていけない。

△お互いにそれを研究し合うグループ活動が起きなければならない。

長寿おめでとう

最高は九十二歳

町内の八十九歳以上（九月十五日現在）の長寿の方は次のとおり。

竹部　カヨ（安尻）　九十二歳
石崎　竹次（稲島）　九十二歳
斎藤　トヨ（角田浜）　九十二歳
阿部　マサ（五ケ浜）　九十一歳
長谷川チヨ（河井）　九十歳
石山　チセ（十区）　九十歳
田島　サヨ（中郷屋）　九十歳
大越　ミセ（三区）　九十歳
岡村　リイ（仁箇）　九十歳
佐藤庄之助（七区）　九十歳
岩崎　タマ（町組）　九十歳
大越　リイ（角田浜）　九十歳
大橋　トヨ（仁箇）　九十歳
高橋　トラ（西下組）　九十歳
久須美キク（七区）　九十歳
石附徳二郎（十三区）　八十九歳
相馬　タケ（十二区）　八十九歳

九月は愛の血液月間

三十日に採血車来町

昭和四十年から、血液の需要が増大する九月に愛の血液助け合い運動の月間を設け、献血に依存してきたわが国の血液事業の正常化を期しています。

献血は、不幸な人を助けるとともに、本人およびその家族などが血液を必要とする場合には「献血手帳」を提示することにより優先的に血液を回してもらえることになっています。

私たちは、不測の事故病気などいろいろな危険にさらされており、いつ輸血を必要とするような事態が起こるかわかりません。

そんなときに備えて健康体のときにぜひ献血をしておきましょう。

月間最終日の九月三十日午前十時から午後三時まで日赤の移動採血車「ゆうあい号」が巻町役場前に来町しますので、献血にご協力ください。

予防接種

ジフ、百混合二回目

ジフ、百混合二回目の予防接種が次の日程で行なわれますので、一回目を受けた人は忘れず受けましょう。昭和四十四年一月一日から昭和四十四年六月三十日までに生まれた赤ちゃんが該当します。

期日	時間	会場
九月三十日	午後一時半～三時	巻町公民館
十月一日	午後一時～一時半	松野尾小学校

お知らせ

世界農林業センサス標語、ポスター募集

来年の一月一日に行なわれる一九七〇年世界農林業センサスの標語とポスターを募集いたします。

世界農林業センサスは激しく変ってゆく日本の農業と農家の姿を正確にうつしとって、日本の農業に正しい進路を与えるために行なわれます。このセンサスに農家一戸一戸のみなさんの協力がえられるよう、けっさくをおよせください。

標語は官制はがきで一枚一句（一人三枚まで）。ポスターは縦六十センチメートル、横四十二センチメートルで文字を含めて五色以内、そして次の文字「一九七〇年世界農林業センサス」、「昭和四十五年一月一日」、「農林省」を入れてください。両方とも十月八日までに役場総務課行政係あてお寄せください。入選された方には農林大臣賞、副賞の賞金が贈られます。

☆うまれたこどもたち☆

（八月一日以降届け出）

赤ちゃんの名まえ	生まれた日	保護者名	住所
永野　史子	7・14	雅史	東6区
渡辺　洋一	7・20	健一	東汰上2
大橋　正裕	7・21	輝夫	漆山
高岡真由美	7・23	稔	馬堀
佐藤　雄大	7・27	繁	漆山
佐藤吉親美	7・29	与三郎	東6区
田中奈津美	7・30	孝	漆山
田辺左知子	7・30	一郎	堀
佐藤　勝	8・1	アイ子	東6区
川見　勉	8・3	照男	松野尾
野沢　穂子	8・5	春男	四郎屋
小川　雅子	8・6	悟	四郎屋
徳吉　征文	8・8	敏夫	角田浜
波入　尚史	8・8	奉文	安尻
土田　正行	8・8	勇治	安尻
石高　広美	8・9	繁男	堀山団
宮田　裕章	8・9	秀夫	堀山団
大滝美和子	8・9	治男	松野尾
星野貴美代	8・11	一誠	松野尾
荒井　克則	8・11	弘美	稲島
若月　俊輔	8・12	瞬夫	稲島
川島　直樹	8・13	常紀	稲島
高橋　晴行	8・14	春男	堀山団

○おくやみ●

（八月一日以降届け出）

名まえ	年齢	なくなった日	住所
八木　勝宏	8	8・14	蒸溜場
安尻　和人	8	8・15	堀山団
山賀　昭博	8	8・16	竹野町
中村　堅次	8	8・17	松野尾
長谷川鍵一	8	8・18	栄町
石田　武也	8	8・22	漆山1
田村　博行	8	8・22	漆山1
後藤ひとみ	8	8・26	天神団
田辺美世子	8	8・29	漆山4
有坂　太郎	8	8・1	蒸溜場
佐藤　雄大	8	8・5	漆山
鈴木　喜八	8	8・5	越前浜
岡村　一明	8	8・13	河井
外山　虎策	8	8・13	馬堀
糧口　孫平	8	8・14	河井
渡辺　スイ	8	8・16	中郷屋
阿部小一郎	8	8・17	角田浜
伊藤栄次郎	8	8・20	布目
岩本　米蔵	8	8・23	仁箇
遠藤　トミ	8	8・24	五ケ浜
片岡アツノ	8	8・26	五ケ浜
後藤ひとみ	8	8・28	松神団
河村　権平	8	8・30	松神団
和須津吾七	73	2	区
86	0	78	93
76	69	81	86
68	56	62	18
72	71		

私たちの仲間

サークル紹介（3）

県高通教巻学習会

共同勉強で孤独克服

通信生って何をする会なの？われわれの学習会の際によく耳にする言葉です。

正式の名称は「新潟高校通信制巻学習会」で、巻を中心に漆山、馬堀、角田浜、越前浜、伏部そして他町村の岩室、潟東など十七人の会員で構成されています。毎月三回～四回巻町公民館、巻小学校体育館の施設を利用し、夜七時～九時半ころまで共同学習を中心にレクリエーション、球技、誕生会などを行ない親睦感、連帯感を深めながら学習意欲の向上につとめています。

会員が各地に点在しているため交通事情や連絡がおもうようにまかせず運営上の問題点となっています。しかし、昭和三十九年に先輩の非常な努力のもとで発足して以来すでに七人の卒業生を送り出しています。

一日の仕事を終えラジオ、テレビの教育放送を参考に自主学習のいわゆる家庭学習が中心のため、時間不足、疲労、孤独感との戦いですが、この学習会によってそれを克服しています。

仕事と勉強を最低四年間続けるのは忍耐力、努力が人一倍必要ですが、われわれは勤労学生として誇りと自信をもっています。

全日制、定時制にみられない良さをもつ通信制は最年長六十余歳から最年少十五歳という年齢差の人たちが県内各地から本校に集まり学習し、語りあうのです。

学習成果を定期的に提出する一通のレポートを通じての先生との対話……その人間的な結びつきからはかり知れない人間的成長がみられるのです。

新潟というこんな身近にある学舎を一般の人たちにはあまり知られず、しいては新聞、雑誌等に見受けられる「社会通信教育」と混同される考え方の人たちがいることを非常に残念に思います。

町内のサークルでは、特異な会かも知れませんが、向学心に燃える方はどなたでもおはいりください。何をする会なの？という前になお、町内の会員は次のとおりです。

伝川未吉（三年）、野沢由次（三年）、星野弘一（一年）、松宮由美子（一年）、保川ユキ（一年）、中村勝（二年）、市橋三男（四年）、佐藤弥三郎（代表者、三年）、上原シゲ子（一年）小林栄一（二年）、石原道香（一年）

写真は楽しい共同勉強の巻学習会